

スラグ有効利用方法に関する調査

全体期間

1995. 2 ～

(目的)

日本下水道事業団では、昭和61年度より兵庫地域（兵庫東、兵庫西）、大阪北東地域、大阪南地域の各自治体の要請で下水汚泥広域処理事業（エースプラン）を計画し、平成元年度より供用開始している。

この内、兵庫西エースセンター、大阪北東エースセンター、大阪南エースセンターでは、汚泥の脱水→乾燥→溶融処理を行い、兵庫東エースセンターでは、汚泥の脱水→焼却処理を行っている。前者の3エースセンターの最終汚泥形態は溶融スラグであり、処分方法は資源化有効利用（溶融スラグ入りブロック等）及び埋立処分であるが、大部分を場内保管に頼っている。

現在、溶融スラグの資源化有効利用方法については、日本下水道事業団はもちろん各自治体でも検討を進めている段階で、加工製品の販売実施に至っている自治体は少ない。

そこで、本調査では日本下水道事業団及び地方公共団体で過去に実施された溶融スラグの資源化有効利用方法の文献等を取りまとめるとともに、路盤材等への利用調査、それぞれの加工製品の市場調査、販売・利用追跡調査等を行い、今後のスラグ有効利用の方向性を模索することを目的とする。

(結果)

平成6年度は調査の初年度として、まず日本下水道事業団が実施してきた溶融スラグの有効利用に関する調査報告書について整理し、過去の成果を取りまとめた。

平成7年度以降の調査計画としては、

- ① 兵庫西、大阪北東、大阪南の各エースセンターに対し、ヒアリング（溶融スラグの物性、稼働日数等の運転状況等）の実施。
各エースセンターの発生溶融スラグ量の実績値・将来計画値等、基本事項の確認。
- ② 溶融スラグの資源化有効利用を検討している団体（官、民、学）及び道路管理者等の利用者側へのアンケート調査。
- ③ ①、②の調査結果を基に、エースセンターに適用できる溶融スラグ資源化有効利用方法の抽出。
抽出した有効利用方法に対して下水道管理者への需要調査、近畿圏の市場調査。
- ④ 現在、溶融スラグを二次加工して製品販売しているものについて市場・利用追跡調査。
を行う予定である。

日本下水道事業団受託研究

研究担当者：中尾 正和，赤石 進，浦川 与作

キーワード

溶融スラグ，有効利用